

両河内まちづくりビジョン

～スマートIC事業化を契機とした「安心して住み続けられる両河内」づくり～

令和4年3月

両河内まちづくり作戦会議



目 次

序 章	両河内のまちづくり作戦会議より	2
第1章	これまでの両河内を振り返る	6
第2章	両河内の将来像を描く	13
第3章	将来像を実現するためにやるべきこと	19
第4章	取組を推進する体制と進め方	31

序 章

両河内のまちづくり作戦会議より

序―1 両河内まちづくり作戦会議メンバーより一言

序―2 両河内まちづくり作戦会議の概要

序－１

両河内 まちづくり 作戦会議 メンバーより 一言

両河内スマートIC（仮称）は、令和３年８月に事業化が発表されました。スマートIC設置による地域振興やまちづくりの促進などの効果を高めるため、令和３年１１月に両河内まちづくり作戦会議をスタートさせました。



まちづくりビジョンへの思い



中山 治己 連合会長

この会議で話し合った両河内の課題と目指すべき方向性は、このように整理された。
これからは地元の頑張りが試される。



大石 章博 氏

子育て世代の人が住みやすい村。



大榎 直哉 氏

両河内に暮らす人、訪れる人、働く人、育つ人、育てる人、全ての人の幸せに
少しでも繋がる取り組みにしていきたいと考えています。

序－1

両河内 まちづくり 作戦会議 メンバーより 一言



久米 歩 氏

スマートインターチェンジと光回線が揃えば、名実ともに日本一便利な田舎「両河内」が整います。

次は日本一子育てしたい田舎「両河内」を目指しましょう！



クラナグ 敦子 氏

両河内に生まれ、育ち、そして今も1日のほとんどをここで過ごしています。

ここで生活、働くことが好きだと言う人と、両河内を大切にする何かを始めたら楽しいかな、と思うようになりました。



北條 真悟 氏

これからの両河内のことを他人事ではなく、自分事と考えて、多くの方々から色々なアイデアを出していただきながら、より良い両河内にしていくために、みんなで考えていきましょう！



望月 司 氏

美しい自然に恵まれ、心豊かな人々が暮らす両河内。社会情勢・社会環境の変化で少子高齢化、人口の減少に歯止めがかからず、「まちづくり」が喫緊の課題であります。

「まちづくりビジョン」の夢や想いを着実に実現し、両河内の活気・賑わいの創出のため、一步一步しっかり取り組んでまいりたい。

両河内まちづくり作戦会議とは

スマートICの事業化を契機として、両河内のまちづくりを
「自分ゴト」と思う人を増やし、つなげていくこと

を目的に、計4回にわたり開催しました。

令和3年度
両河内まちづくり作戦会議 概要

第1回 「スマートICと地域資源を掛け合わせよう！」

開催日：令和3年11月9日（火）

第2回 「両河内の魅力の掛け算～地域資源×暮らし～」

開催日：令和3年12月14日（火）

第3回 「両河内の魅力の掛け算～雇用・経済×地域資源～」

開催日：令和4年1月26日（水）

第4回 「今年度議論のとりまとめと来年以降の作戦を練る」

開催日：令和4年3月11日（金）

序－2

両河内 まちづくり 作戦会議の概要

第1章

これまでの両河内を振り返る

1－1 両河内の現状

1－2 両河内のこれまでの取組

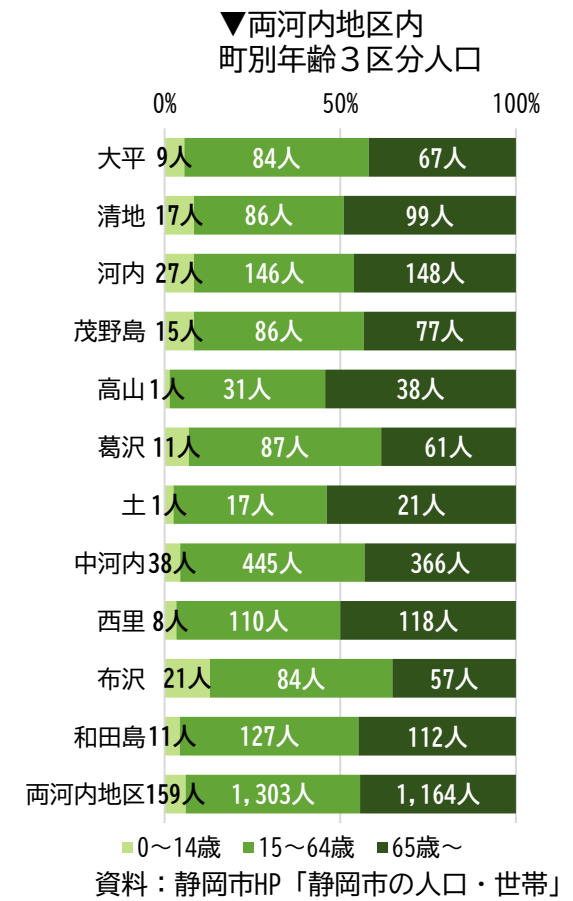
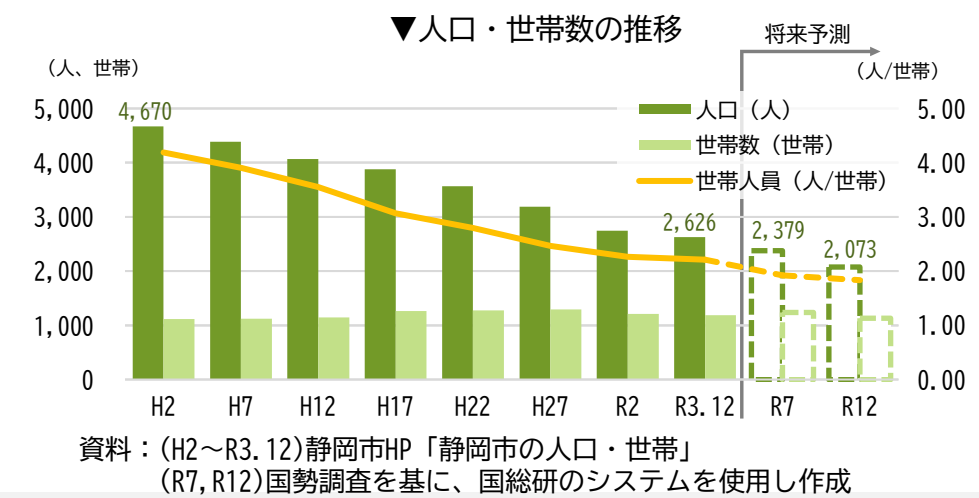
1－3 豊かな地域資源

両河内の現状

- ・人口
- ・世帯数
- ・高齢化率

- 人口は30年間で約4割減少しています。世帯人員は4.2人から2.21人となり、二世代家族から独居・高齢夫婦・核家族化へと世帯構成が転換しています。
- 約10年後の令和12年には、人口は2,073人まで減少すると予測されています。
- 高齢化率が50%を超える（2人に1人以上が高齢者となっている）地域が存在し、両河内地区全体でも高齢化率は概ね40%を超えています。

- ・人口 | **2,626** 人 (R3.12.31時点)
- ・世帯数 | **1,188** 世帯
- ・世帯人員 | **2.21** 人/世帯
- ・高齢化率 | **44.3** %

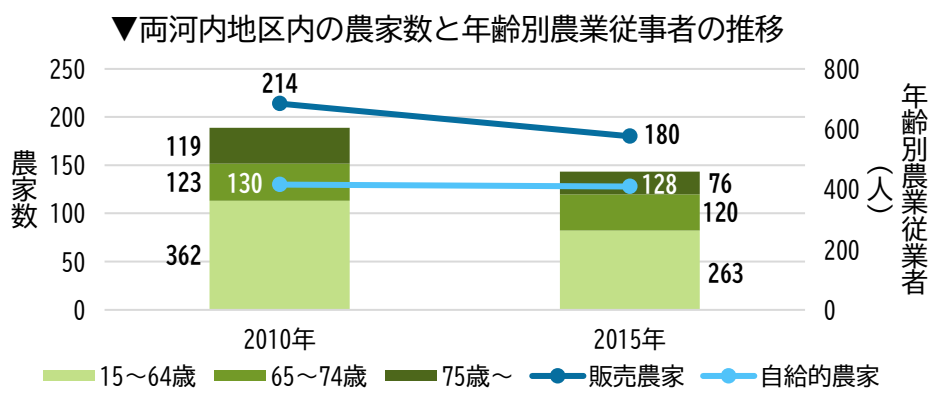


両河内の現状

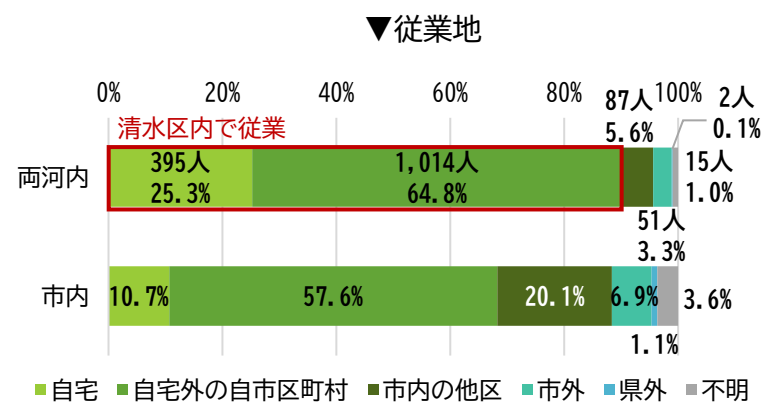
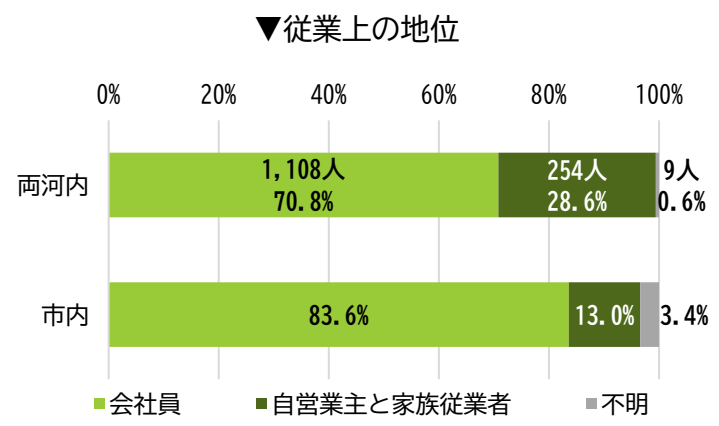
- 産業
- 就業

- 販売農家は5年間で約16%減少し、さらに、農家の高齢化が進んでいます。

主な農作物 お茶、山葵（花山葵・根山葵）、たけのこ、
トマト、里芋（女早生）



- 自営業主と家族従業者の割合が市内と比べると多くなっています。
- 自宅や清水区内で従業する人の割合が市内と比べると多くなっています。



H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31/R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
---------------	---------------	---------------	------------------	--------------	--------------	--------------

1-2

両河内の これまでの取組

インターとまち
づくりについて

スマートICとまちづくりについて両河内地区の農業、漁業、環境、旬の食、健康、スポーツ、総合といった分野ごとに現状と課題、将来実現したい目標について整理。



両河内
プロジェクト

「5年後の両河内」作成・実施

全2回にわたり開催。4グループに分かれて、自治会の仕組みや子ども、高齢者の見守り体制、生活環境などについて地域でできる具体的な取組方法について検討。

地域ケア
システム

全2回にわたり開催。両河内にとって必要、重要だと思うこと、それを実現するための施設やシステムについての意見や提案をより多くの人から集め、小学校別に立地を活かした施設、誰でも利用しやすい施設、自然や伝統を体験できる施設などを提案。

学校跡地で
まちづくり

地域デザイン
カレッジ

NPO法人
「清流の里
両河内」設立

「ココバス」運行開始



しずおか自治
取組発表会

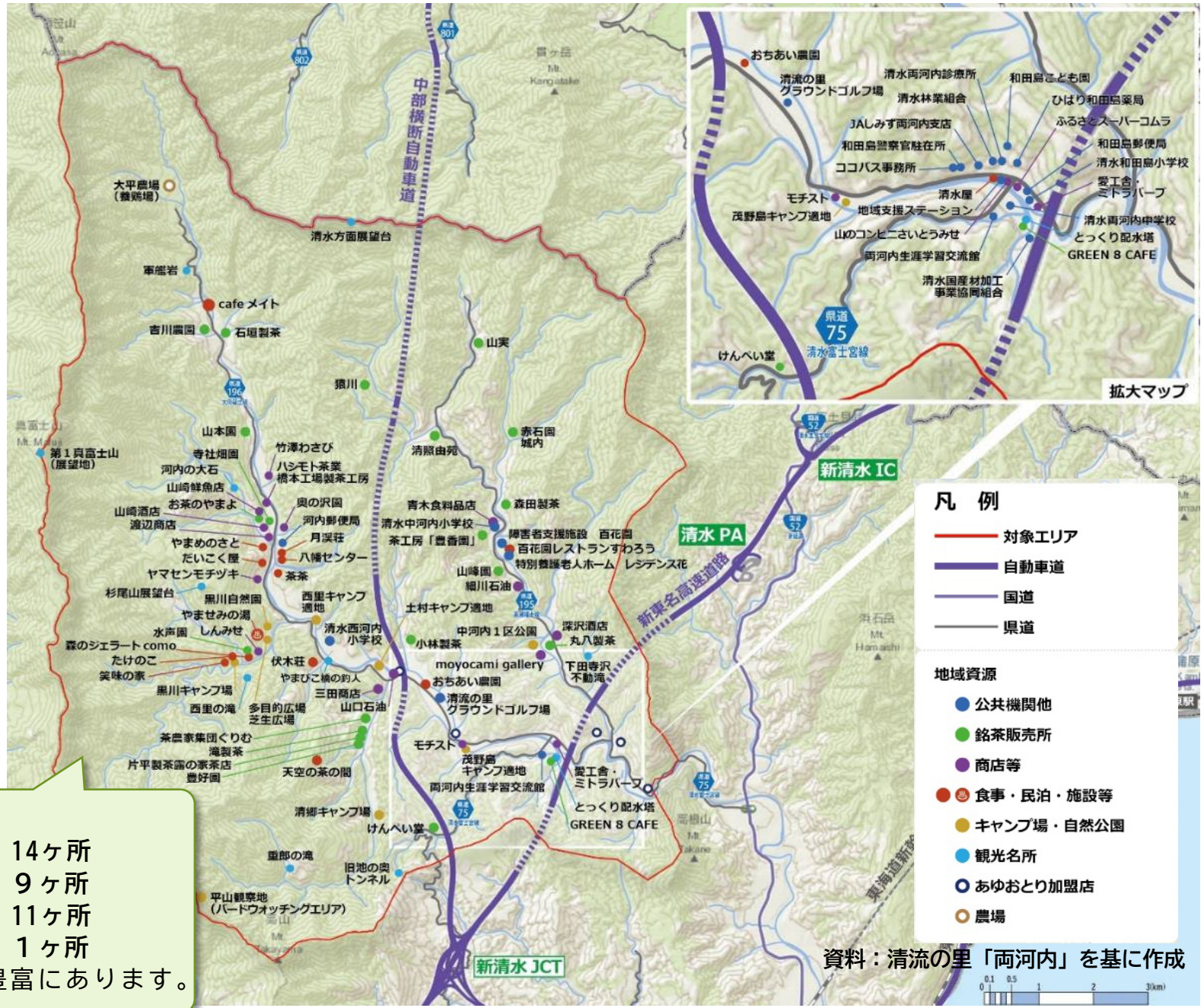
1-3

豊かな地域資源

両河内には、

・食事・民泊・施設など	14ヶ所
・キャンプ場・自然公園	9ヶ所
・観光名所	11ヶ所
・農場	1ヶ所

をはじめ、地域資源が豊富にあります。



自然資源

興津川（おきつがわ）



興津川非出資漁業協同組合 提供

静岡市清水森林公園などの森林・山林



（杉尾山展望広場）

活動資源

キャンプ・野外活動



（和田島キャンプ適地）

温泉



（やませみの湯）

祭り



（桜まつり）

1-3

豊かな地域資源

第2章

両河内の将来像を描く

2－1 これまでの将来像とその到達点

2－2 今後のまちづくりの視点

2－3 将来像を実現するためにスマートICに期待すること

2-1

これまでの 将来像と 到達点



両河内では平成29年に多くの住民が参加したワークショップの成果として、「5年後の両河内」を掲げ、実現に向けて取り組んできました。

目標となる5年を迎え、ビジョンの見直しを行います。

平成29年 まちづくりのビジョン ～5年後の両河内～

➡成し遂げられたこと

- ・光通信網の整備
- ・小中一貫校
- ・自治会役員のスリム化など

令和4年（目標年）

➡ビジョンを見直す時期

【目標とする時期と目標像】

- このビジョンが目標とする時期は、スマートICが広く利用されている頃とします。
(概ねこれから10年以内程度)
- まちづくりの目標は、平成29年のまちづくりのビジョンでは、「3000人の人口がたとえ2500人になっても安心して住み続けられる」でした。人口が既に2500人を割り込むことが目前となり、さらに10年後には2000人程度まで減少すると予測されている中、まちづくりの目標を新たに設定します。
- 両河内のまちづくりの目標は作戦会議の議論を経て以下のとおりとします。

「いつまでも、安心と誇りを持って
住み続けられる両河内」

【今後のまちづくりの視点】

両河内のまちづくりは、以下の4つの視点で取り組みます。

■ マイナスを減らす

- 両河内のまちには、現状で暮らしやすさを阻害するマイナス要因があるため、それをしっかりと把握し、ひとつひとつ改善していきます。

■ プラスを増やす

- マイナス要因を改善するとともに、暮らしやすさ（プラス要因）を増やしていくことにも取り組みます。

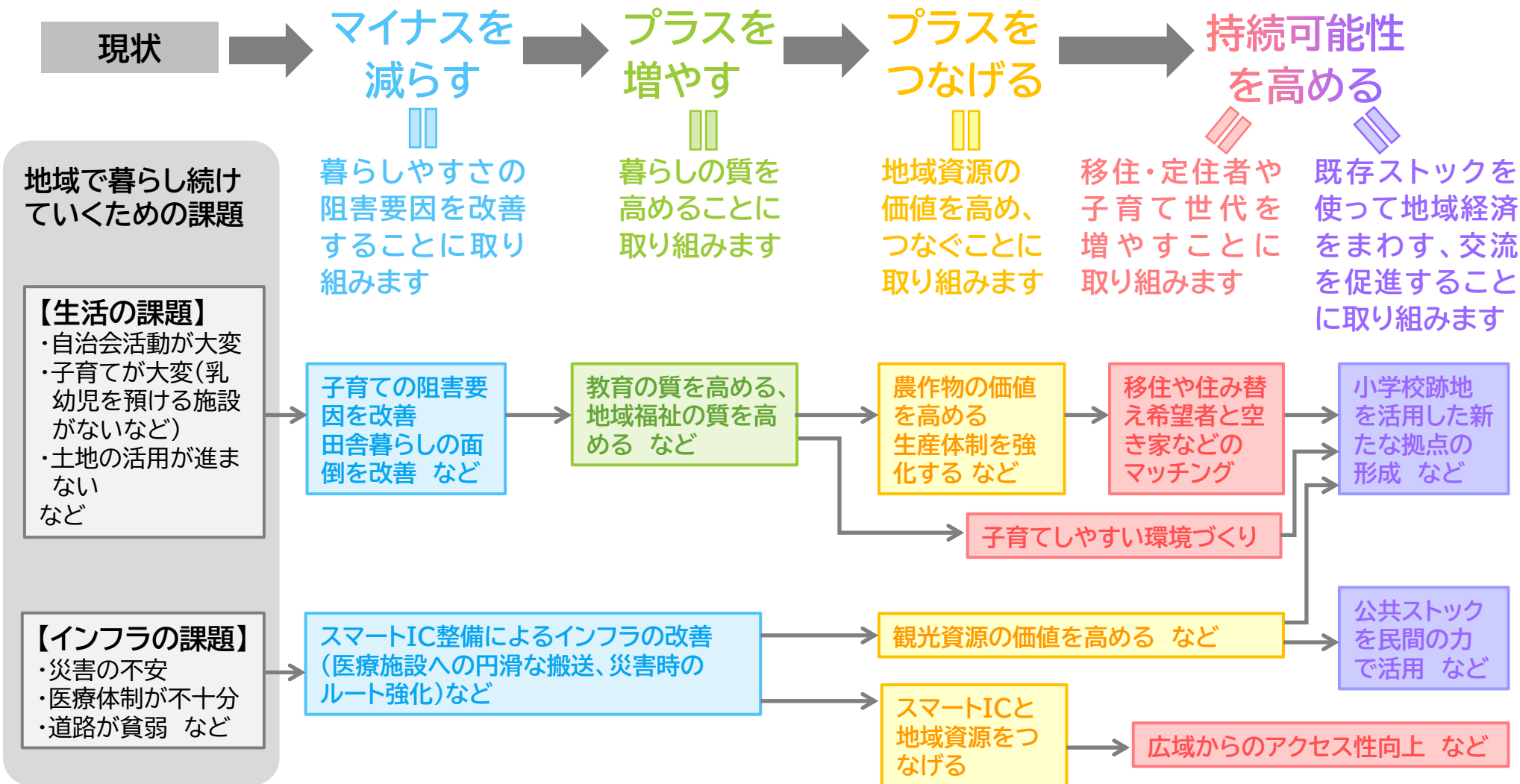
■ プラスをつなげる

- 両河内には魅力的な多くの地域資源があり、それらの地域資源を磨き、組み合わせることで、プラスをつなげていきます。

■ 持続可能性を高める

- 定住者や交流人口を増やしたり、経済を活性化することで、プラスの状態が続くよう持続可能性を高めます。

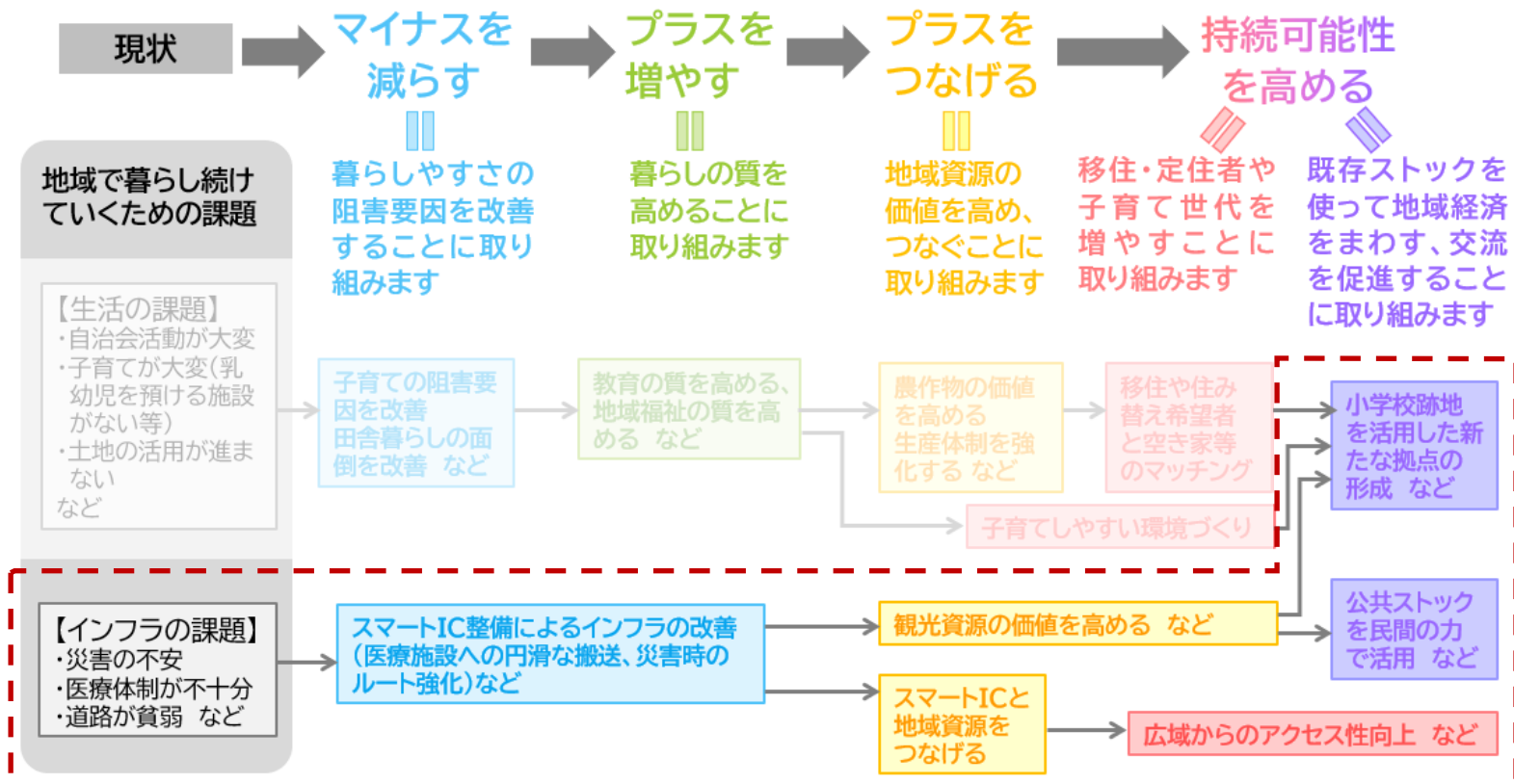
4つの視点によって現状をどのように変えていくのかを図解すると、以下のようになります。
第3章では、以下の視点に応じて取り組む内容を提示しています。



2-3

将来像を実現するためにスマートICに期待すること

- 将来像を実現するためにスマートICに期待することは、まずインフラに起因する課題を改善すること（医療施設への円滑な搬送、災害時のルート強化など）です。
- しかしそれだけでなく、アクセス性の向上により地域の観光資源の価値を高めたり、移住や住み替えの心理的なハードルを下げたりする効果へと波及していくことも期待しています。



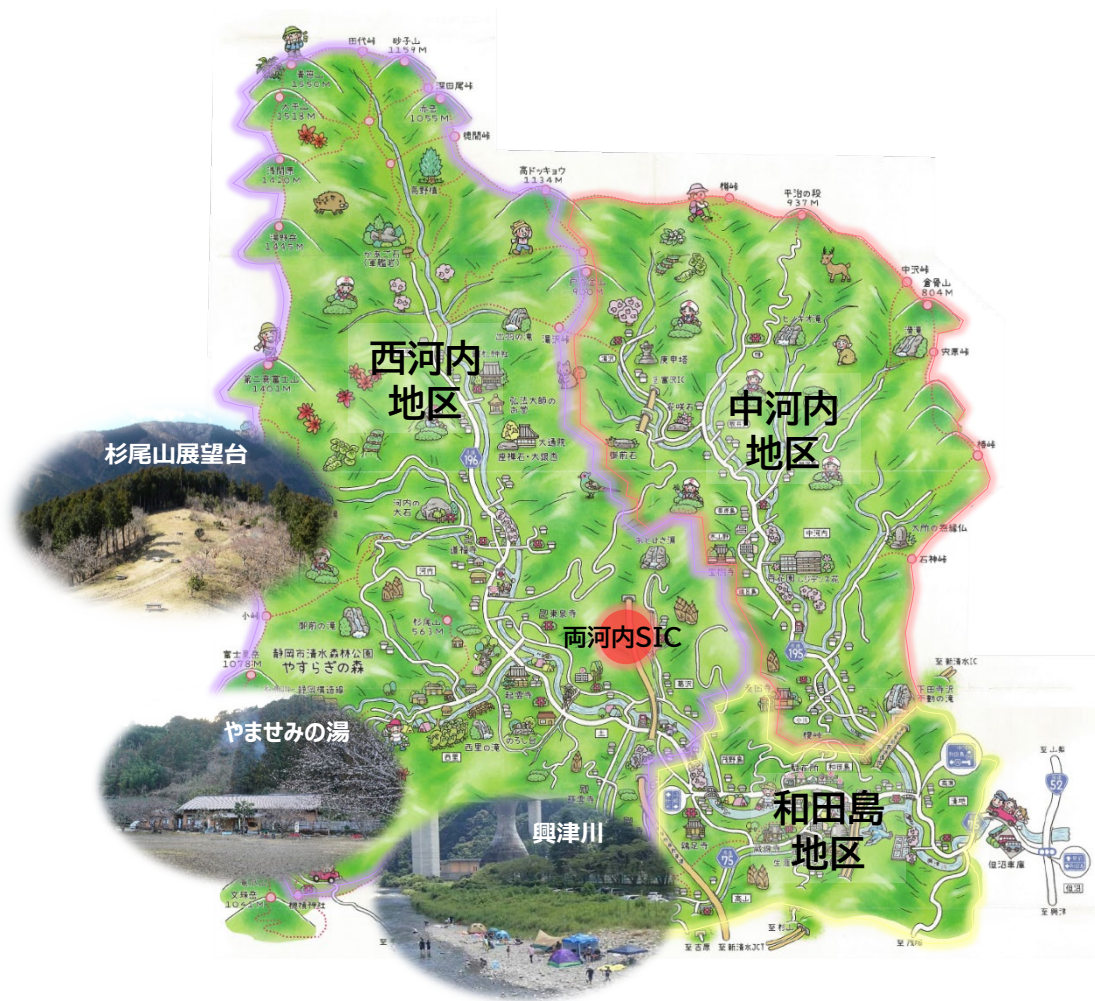
将来像を実現するためにスマートICに期待すること

第3章

将来像を実現するためにやるべきこと

- 3-1 暮らしやすさの阻害要因を改善する (マイナスを減らす)
- 3-2 暮らしの質を高める (プラスを増やす)
- 3-3 地域資源の価値を高め、つなぐ (プラスをつなげる)
- 3-4 移住・定住者や子育て世代を増やす (持続可能性を高める)
- 3-5 既存ストックを使って地域経済をまわす・交流を促進する (持続可能性を高める)

将来像を実現するためにやるべきこととして、
両河内のまちづくりは行政と連携しながら、
4つの視点で取組みます。



マイナスを減らす

暮らしやすさの
阻害要因を改善する



プラスを増やす

暮らしの質を
高める



プラスをつなげる

地域資源の価値を高め、
つなぐ



持続可能性を高める

移住・定住者や
子育て世代を増やす



持続可能性を高める

雇用を創出する、
地域経済を活性化する



マイナスを
減らす

両河内で生活をしていくには、様々な弊害があります。
小さな暮らしやすさの阻害となる要因を改善する取組を進めます。

3 - 1

暮らしやすさの 阻害要因を 改善する

【地域の取組】

- 地域の役回り（自治会活動やPTA活動など）のスリム化・効率化

消防団、PTA、自治会などの地域の役回りについて、他地域の取組を参考にしながら、削減することにより、スリム化、効率化を進めます。



- 児童の送り迎え負担の軽減

毎日の朝夕における児童の学校への送り迎えの負担を減らすことのできる仕組みづくりを進めます。

- 乳幼児の一時預かり機能の確保

子育て世代が両河内で、働きながら安心して子育てすることができるよう、0歳からの乳幼児を一時的に預かることができる仕組みづくりを進めます。



【スマートIC整備への期待】

地域としての期待

● 緊急時の病院などへの円滑な搬送

近傍に救急医療施設が少ない両河内において、緊急時の医療施設へのアクセスが向上することができ、救命救急活動の搬送時間の短縮効果を期待します。



● 災害などによる一般道路不通時の代替ルート確保

山々に囲まれた両河内において、災害などの発生による通行止めや大きな迂回が生じ、孤立状態になった経緯を踏まえ、代替ルートを確保し、防災機能を強化することを期待します。

プラスを
増やす

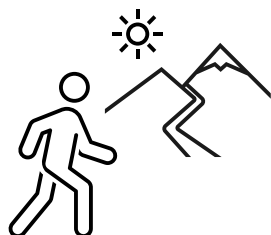
人口が減少するなか、地域の中のコミュニティづくりや暮らしに身近な環境を整えることにより、暮らしの質を高める取組を進めます。

3 - 2

【地域の取組】

● 地域ケアシステムの構築

高齢者見守り体制や、地域内の身近な交流を促進するため、ココバスを利用した移動支援などにより、地域で暮らしを見守る仕組みを構築します。



● 健康に暮らせる環境づくり

豊かな自然に囲まれながら、ウォーキングやハイキングができる環境を整え、健康で平穏な暮らしを送れる環境をつくります。

【行政との連携による取組】

● 小中一貫校ならではの教育プログラムにより教育の質を高める

義務教育の9年間を通じて、子どもの学力や能力向上、自立性の育成などを目指した質の高い教育を小中一貫校で展開し、地域への誇りと愛着を育みます。



【スマートIC整備への期待】

地域としての期待

- 市街地との移動時間、通勤時間の短縮

スマートICの整備により、市内中心部との移動時間が短縮されることで、日常の買い物や通勤の利便性が向上し、地域での生活の利便性が高まる効果を期待します。

- 両河内とスマートICを結ぶアクセス動線確保

スマートICを最大限に活かし、またいつでも気軽に利用することができるために、両河内地域とのアクセス性を高める道路を確保することにより、地域住民の利用が促進される効果を期待します。

プラスを
つなげる

両河内にある豊富な地域資源の魅力を見つめ直し、その良さを活かす最適な方法を考えることにより、価値を高め、発信する取組を進めます。

3-3

【地域の取組】

● 興津川のキャンプ適地の環境を見直す

興津川魅力を語り合う協議の場を設け、豊かな環境を維持する取組を実施。キャンプ適地の環境を改善し、川の環境の価値を高め、地域の価値を高めます。



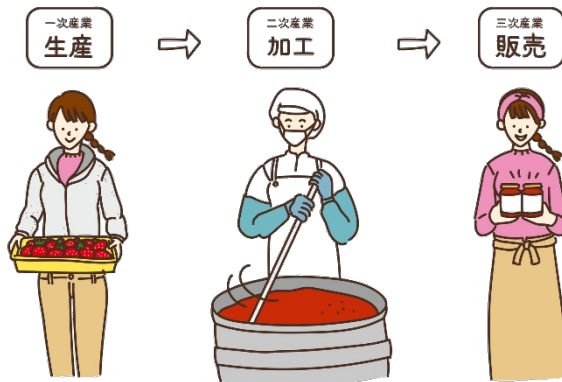
● 農作物の生産体制を組織化する

地域資源を活かした農林業の6次産業化を目指し、加工場をつくるなどにより、安定した生産体制を構築します。

● お茶やたけのこなど特産品の品質を高める

お茶、たけのこや在来大豆(ここ豆)といった地域で生産する特産品について、その品質を高め、他にはない両河内ブランドとして地域をPRしていきます。

六次産業化



地域資源の
価値を高め、
つなぐ

3-3

地域資源の 価値を高め、 つなぐ

- 茶の間テラスのような「映える」^ば場所を見つけてつなぐ

両河内の豊かな自然環境や地形の特徴を活かし、非日常を感じることができる「映える」風景を見つけ出し、地域の魅力としてつなげて展開します。



【行政との連携による取組】

- 地域の資源や人財を活かした自然の家の運営

小学校跡地を改修する自然の家では、地域の豊かな自然環境や資源を活かすことにより、他にはない貴重な体験の場を提供するとともに、様々な面から地域の人々と連携しながら、地域の魅力を発信します。

【スマートIC整備への期待】

地域としての期待

● 集客力の向上

スマートICの整備により、より広域の地域とのつながりが生まれ、地域内の主要な施設である清水森林公園、やませみの湯や興津川の鮎釣りなどの来訪者が増え、集客力の向上につながる効果を期待します。



スマートICの効果を高めるために・・・

地域による利用促進策

● 地域資源の活用と魅力発信

地域の魅力的な資源をこれまで以上に認識してもらうため、効果的な告知やPRの方法を検討し、より多くの人とのつながりがうまれることを促進します。

■静岡市清水森林公園 やすらぎの森
(やませみの湯・黒川キャンプ場など)



■興津川の鮎釣り



興津川非出資漁業協同組合 提供

持続可能性を
高める
(住民の獲得)

豊かなライフスタイルを過ごしたい若い人々にとって、両河内に住むことが選択肢の一つとなるような取組を進めます。

3-4

移住・定住者や
子育て世代を
増やす

【地域の取組】

● 移住・二地域居住体験ツアー

両河内に暮らすこと、両河内の人々と交流することを体験するツアーを実施します。ゆくゆくは、小学校跡地を移住体験のベースとして活用します。



● 移住・住み替え希望者と空き家などのマッチング支援

空き家バンクではできない、ニーズ（移住・住み替え希望）とシーズ（空き家）のマッチングを地域が支援します。

【行政との連携による取組】

● 山村留学の受入れなど、地域で子育てする取組の推進

小中一貫校において教育の質を高めるとともに、山村留学の受入れなどを実施することにより、両河内ならではの温かい子育て環境づくりを推進します。



3-4

移住・定住者や 子育て世代を 増やす

【スマートIC整備への期待】

地域としての期待

- アクセス性の向上による、移住や第二の居住地としての選択可能性の拡大

スマートICの整備により、移動時間が短縮されます。これにより移住に対するハードルの低下や、二地域居住の対象地として選ばれやすくなる効果を期待します。



スマートICの効果を高めるために・・・

地域による利用促進策

- 移住や第二の居住地としての両河内の継続的なPR

地域の実行組織(まちづくり会社など)と清水区移住促進プロジェクトチーム(清水区役所若手職員を中心に結成)との連携による冊子の続編に取り組むなど、移住や第二の居住地としての両河内のPRを促進します。



両河内を紹介する冊子
「ふるさと両河内」
令和2年3月発行

持続可能性を
高める
(雇用・経済)

両河内にある地域資源や人の資源を活かして雇用を創出するとともに、内部の経済循環や外部との交流を高めて地域経済を活性化します。

3-5

雇用を創出する、
地域経済を活性化
化する

【行政との連携による取組】

● 小学校跡地を活用した新たな拠点の形成

廃校となる小学校跡地を地域や民間の力で活用し、地域の交流拠点、来訪者の行動拠点、新たなビジネスの拠点などとして活用します。



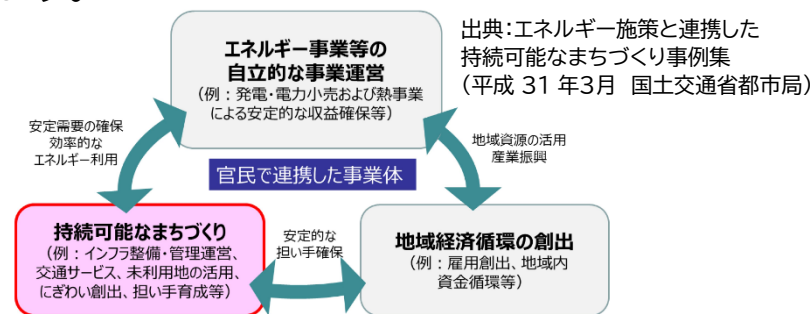
静岡市清水森林公園
などの森林・山林



県内廃校活用事例：
島田市山村都市交流センターさま
(宿泊・体験講座などに活用)

● 森林公園や市有林など公共ストックの民間活用

市が所有する広大で魅力的な公共ストックを活用して民間のビジネスを展開します。



▲エネルギー事業を例とした持続可能な地域事業のイメージ

【スマートIC整備への期待】

3 - 5

雇用を創出する、
地域経済を活性化
する

地域としての期待

- 地域の新たな玄関口創出による交流人口拡大

広域的な交通ネットワークにつながる玄関口ができることで、これまで両河内にアクセスしにくかった人々もアクセスできるようになり、交流人口の拡大が期待できます。

しかし、やみくもに自動車が増えると、地域の交通渋滞や交通事故などが懸念されます。



スマートICの効果を高めるために・・・

地域による利用促進策

- スマートICから両河内を回遊する移動手段の確保

例えば、スマートICの付近の遊休地などを活用して一時駐車機能を確保し、レンタサイクルなどを配備することで、地域内への過度な自動車流入を抑制しつつ交流人口を拡大することなどを促進します。



【行政との連携による取組】

マイナスを
減らす

地域の役回り（自治会活動やPTA活動など）のスリム化・効率化

児童の送り迎え負担の軽減

乳幼児の一時預かり機能の確保

プラスを
増やす

地域ケアシステムの構築

健康に暮らせる環境づくり

小中一貫校ならではの教育プログラムにより教育の質を高める

プラスを
つなげる

興津川のキャンプ適地の環境を見直す

農作物の生産体制を組織化する

お茶やたけのこなど特産品の品質を高める

茶の間テラスのような「映える」場所を見つけてつなぐ

持続可能性を
高める
(住民の獲得)

移住・二地域居住体験ツアー

移住・住み替え希望者と空き家などのマッチング支援

山村留学の受入れなど、地域で子育てする取組の推進

持続可能性を
高める
(雇用・経済)

小学校跡地を活用した新たな拠点の形成

森林公園や市有林など公共ストックの民間活用

住民みんなにメリットがある、持続可能な地域事業の創出

第4章

取組を推進する体制と進め方

- 4－1 地域と行政でスクラムを組んで前進する
- 4－2 地域の実行組織を形成する
- 4－3 まずは小さくやってみる
- 4－4 両河内を想う環を広げていく

4-1

地域と行政で スクラムを組ん で前進する

- 「第3章 将来像を実現するためにやるべきこと」は、地域だけでできるものではなく、行政との緊密な連携が必要となります。
- 両河内の有志と行政の関係部局から成る協議会など、**地域と行政がスクラムを組んでビジョンを実現していく体制の構築が望まれます。**

★ 両河内のまちづくりや活性化全般に関して議論する体制も考えられますが、例えば「興津川環境整備協議会」や「移住・定住を促進するプロジェクトチーム」など、地域の関心が高い特定のテーマから議論を始めていくことも考えられます。

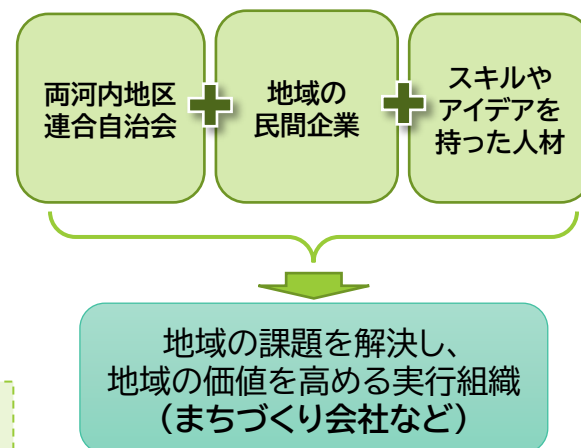


4-2

地域の実行組織 をつくる

- 両河内はこれまで、自主運行バス「ココバス」を運行するためにNPO法人を立ち上げるなど、行政に依存せず地域が主体となって地域に必要な事業を創出してきました。
- このような土壌をさらに醸成し、**自治組織を超えた地域の実行組織（まちづくり会社など）の組成に向けて検討を進めます。**

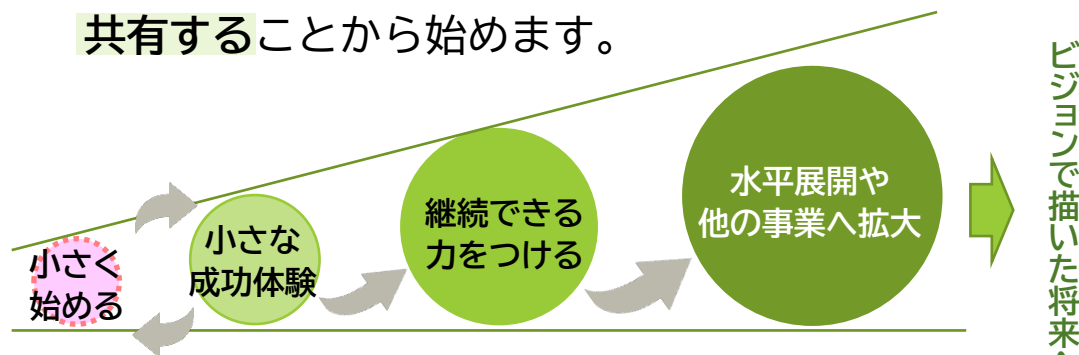
★ まちづくり会社などが担う事業としては、「移住・住み替え希望者と空き家などのマッチング支援事業」や「小学校跡地を活用した事業」などが考えられます。



4-3

まずは小さく やってみる

- まちづくりビジョンに描く将来像のすべてを一度に実現しようとすると、大きなハードルにぶつかり挫折してしまいます。
- まずは、有志によって小さな一歩を踏み出し、**地域への想いと成功体験を共有すること**から始めます。



★ 小さな第1歩として、例えばスマートICからちょっとした地域の回遊を誘発することを想定した回遊実験や、空いた小学校での宿泊体験、キャンプ適地でタケノコやここ豆のアウトドア料理教室、などが考えられます。

4-4

両河内を想う わ 「環」を広げていく

- このビジョンは、両河内の有志7名の「まちづくり作戦会議」からつくりあげたものです。しかし、両河内を変えていくにはまだまだ力が足りません。このビジョンを足掛かりに、**両河内の住民や外部のサポーターなど両河内を想う「環」を広げていくことが必要**です。
- 作戦会議の継続とともにアクションを起こしていき、仲間の環を広げていく取組を継続していきます。

★ 「環」を広げていくためには、スマートICの利活用を推進し、両河内の注目度を高めることが大きな後押しとなります！

両河内まちづくりビジョン

